

平成23年度第 1 四半期業績説明資料

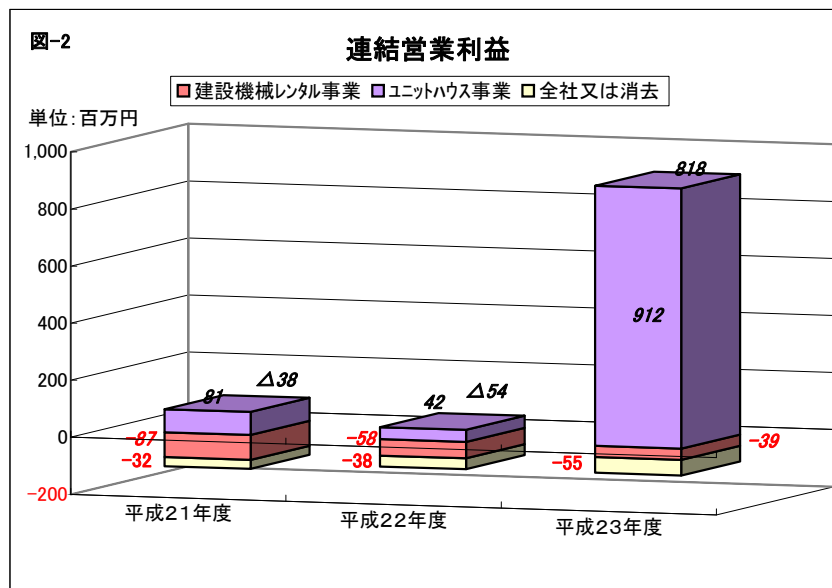
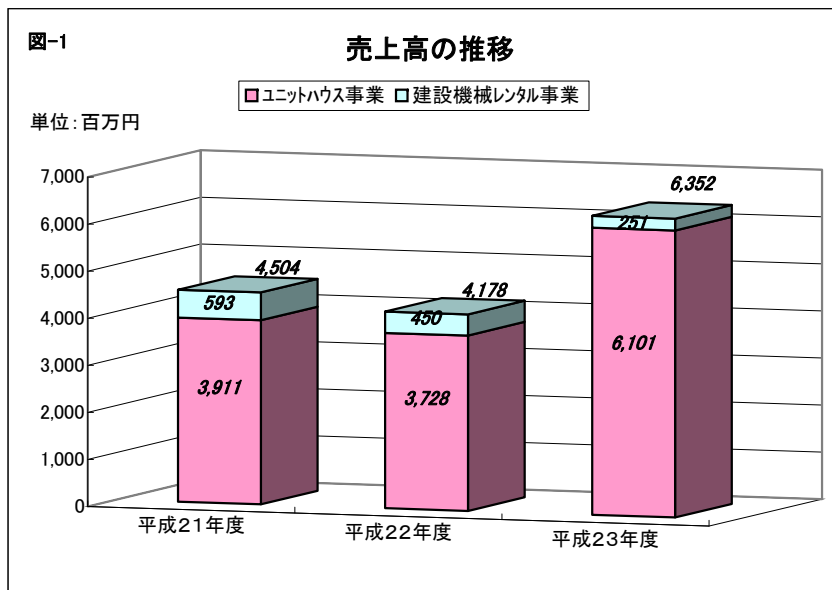
平成23年8月

株式会社 **ナガワ**

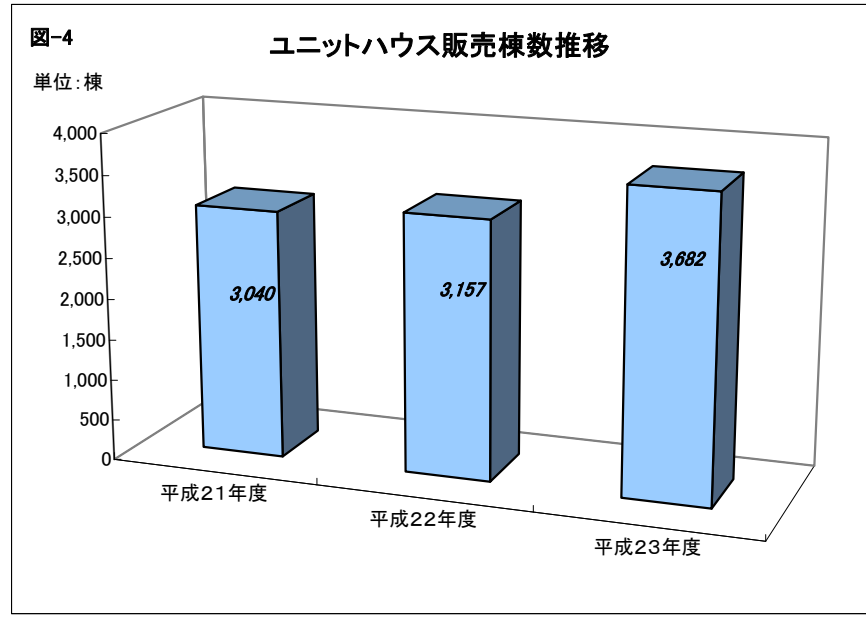
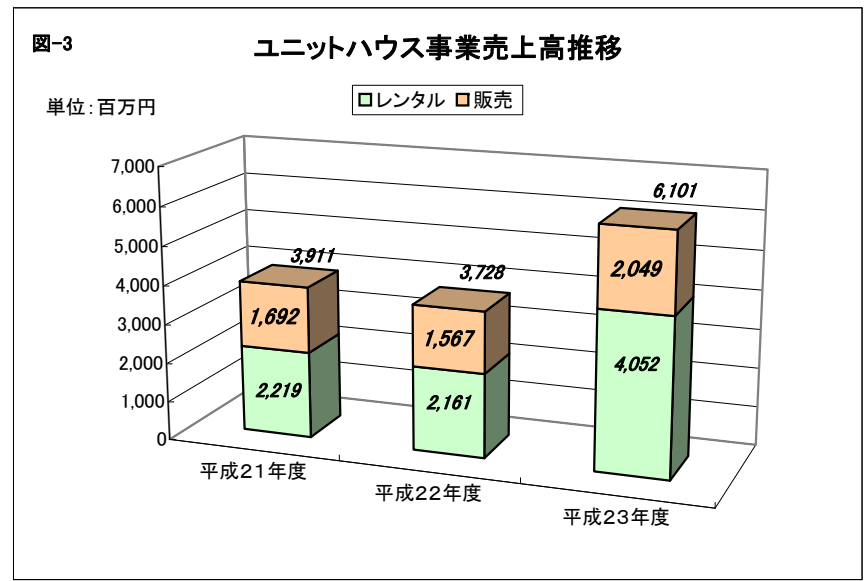
平成23年度第1四半期の概況

- 建設市場全般
東日本大震災の影響で、足元の建設工事は民間、公共とも低迷が継続しているが、受注ベースでは民間、公共とも上向いてきている。

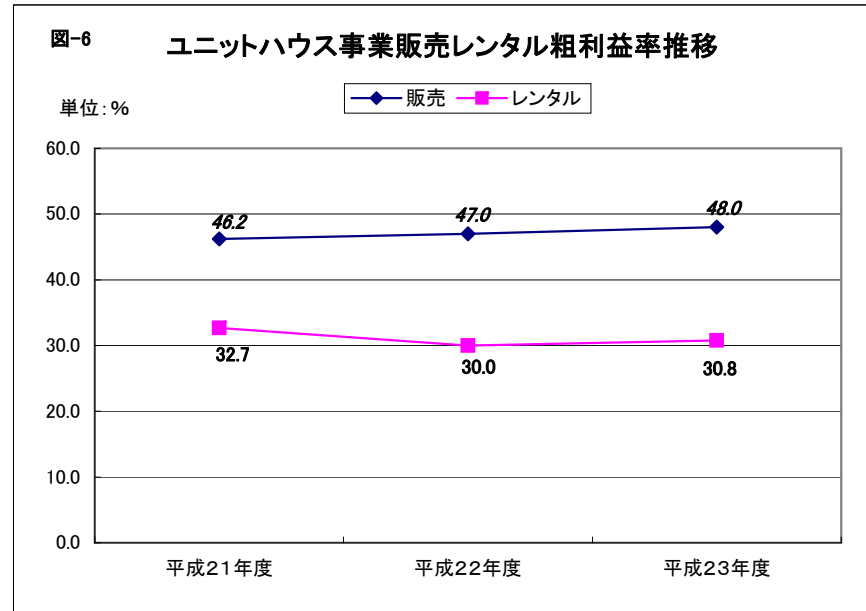
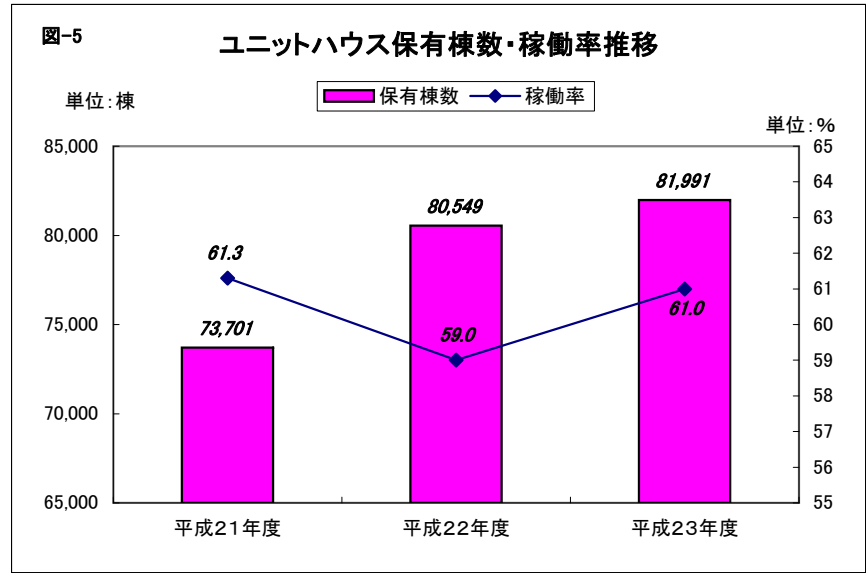
東日本大震災による応急仮設住宅建設により、東北地方のプレハブ、ユニットハウス需要は急拡大しているが、その他の地域は予算執行の遅れから、公共工事が低迷し、民間設備投資についても様子見が多く低滞している。また、被災地についても本格的な復旧工事は始まっていない。



- ユニットハウス販売
 新棟・中古とも、東北地方で需要が急増する。
 需給逼迫により単価も上昇。
 販売のうち、応急仮設住宅向けは1億9千万円。



- ユニットハウスレンタル
 レンタル稼働棟数の伸びは震災後拡大しているが、復興作業の遅れにより緩慢である。
 レンタル売上高の増加分のうち、応急仮設住宅建設関連の売上高は18億円を占める。
 ただ、昨年から進めている値戻しに、震災による緊急需要が加わり、単価は徐々に戻りつつある。



● 建設機械レンタル事業

北海道南部の公共工事が、予算の遅れにより大幅に減少。
 このため、レンタルは引続き前年を下回って推移した。
 販売は、昨年事業閉鎖した資材販売(前年同期1.1億円)がなくなったほか、
 低採算の建機仕入販売を絞ったため、前期比7割減となった。
 しかし、粗利益率は販売、レンタルとも大幅に改善し、赤字幅は縮小した。

図-7

建設機械レンタル事業
販売・レンタル各売上高推移

単位:百万円

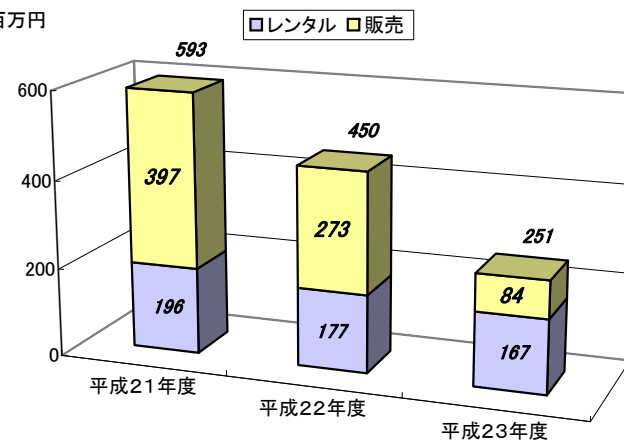
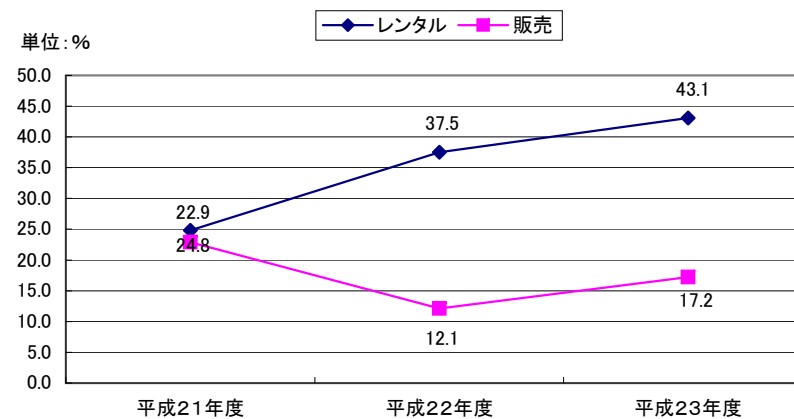


図-8

建設機械レンタル事業販売・レンタル粗利益率推移

単位:%



● 設備投資

第1四半期の設備投資は、例年通り工事量が少ない時期であり低水準であるが、応急仮設住宅用に投入した貸与ハウスが投資額を押し上げた。一方、減価償却費は、過去のレンタル資産の積上げにより前年並みとなった。

